



# 「杏林型ウェルネスツーリズム」の構想立案と実施 およびその妥当性検証に関する研究

小堀貴亮(外国語学部) 石井博之(保健学部) 古本泰之(外国語学部) 北出恭子・中川智博・鈴木宏規・太田裕介(地域総合研究所客員研究員)

## 1. はじめに

我々はこれまで、保健学部・外国語学部観光交流文化学科の教員が主体となり「ウェルネスツーリズム」の推進に取り組んできた。本研究におけるメンバーは健康寿命延伸と運動、栄養と運動、観光学、温泉の専門家で構成されている。今年度は特に、本学と包括連携協定を締結している静岡県東伊豆町と、新たに地域連携活動を進めている長野県において研究・教育を進めてきたので、その成果を報告する。

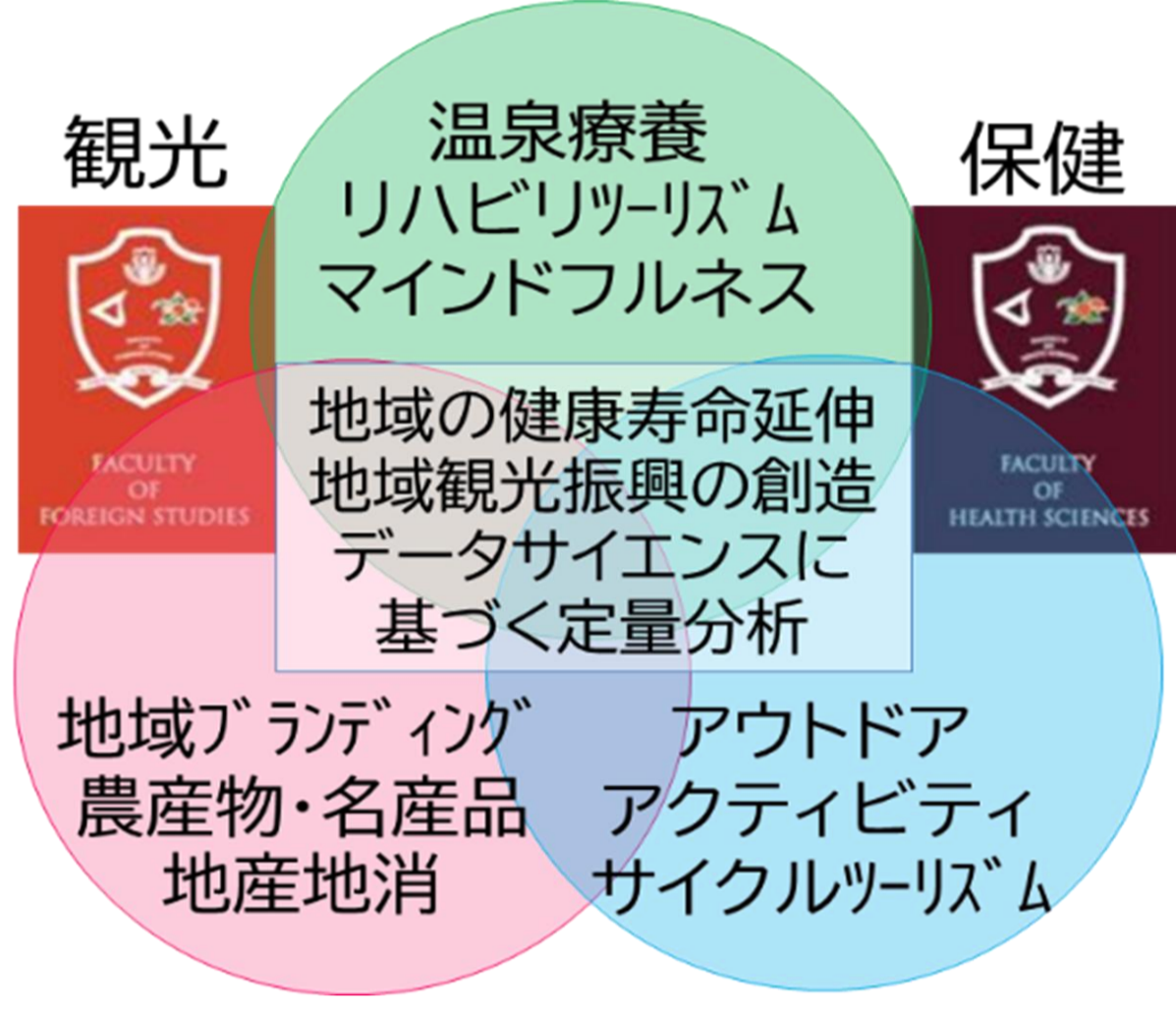


図1 研究体制の概念図



図2 研究対象地域の位置

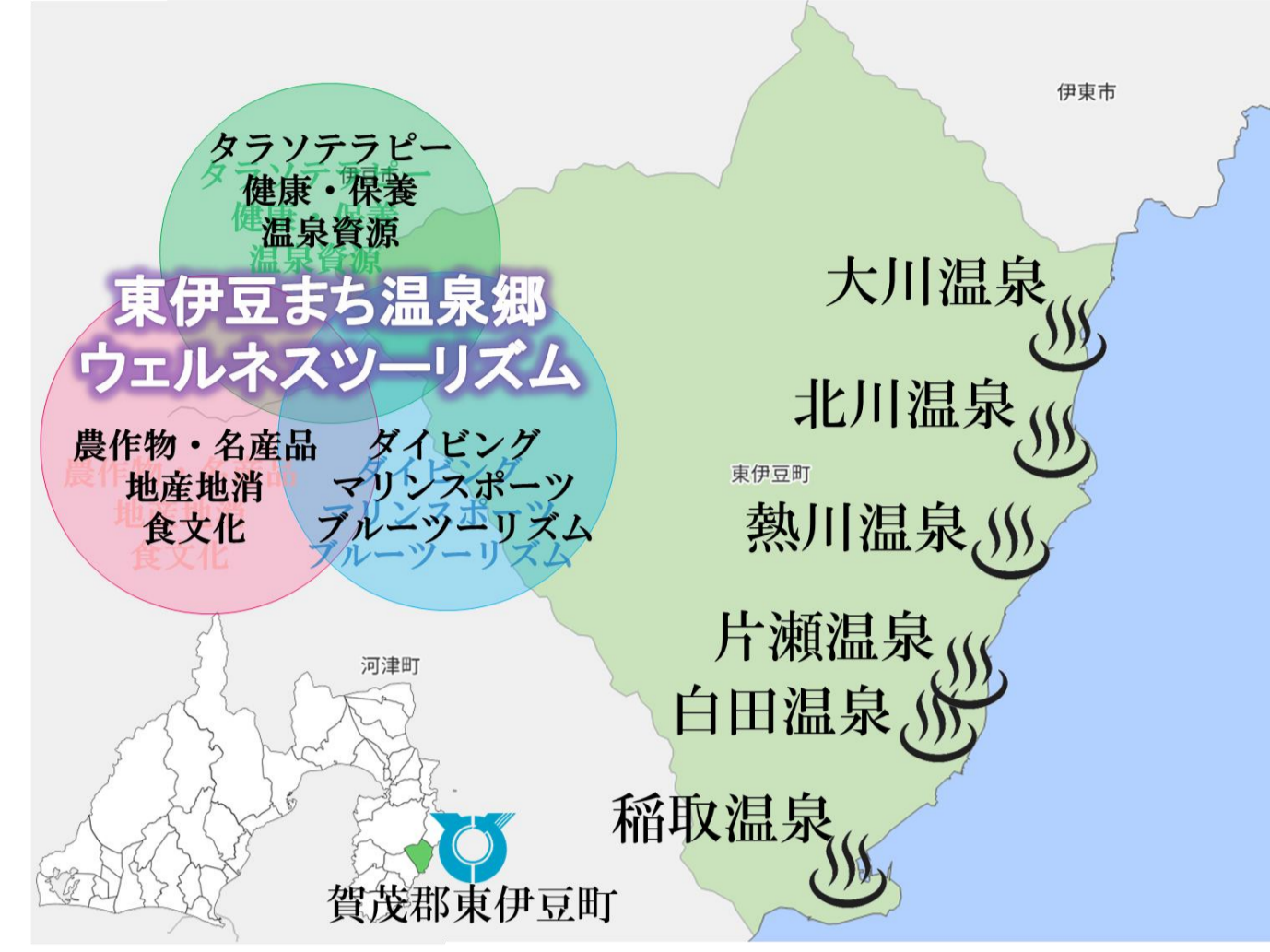


図3 東伊豆ウェルネスツーリズム構想



図4 保健・観光ゼミ合同調査(長野)

## 2. 現状報告と今後の展望について

今年度は主に静岡県東伊豆町および長野県観光機構の関係者と我々が協議を行い、今後の方向性を検討した。現時点のウェルネスツーリズムにおける個別の取り組み状況および今後の計画は以下の通りである。

### ①現状報告

・静岡県東伊豆町におけるウェルネスツーリズムを基調とした温泉地域振興

今年度は、静岡県東伊豆町および長野県観光機構との協議を通じ、ウェルネスツーリズムの方向性を検討した。東伊豆町とは包括連携協定に基づき協議を行い、人口減少や医療体制の課題を踏まえ、予防重視型の健康観光の必要性を共有した。特に温泉と運動を組み合わせた「令和の湯治」や、空き家活用による滞在型観光の可能性が示され、持続可能な地域モデルの構築が提起された。また農福連携による地域活性化や観光資源化の展望も確認された。さらに、都市部での体験型イベント実施を通じて地域資源の発信を行い、関係人口創出と誘客促進に寄与した。今後は学際的知見を活用し、教育と地域貢献の両立を図る。



図5 東伊豆観光健康まちづくり講座ポスターおよび新聞記事(伊豆新聞)

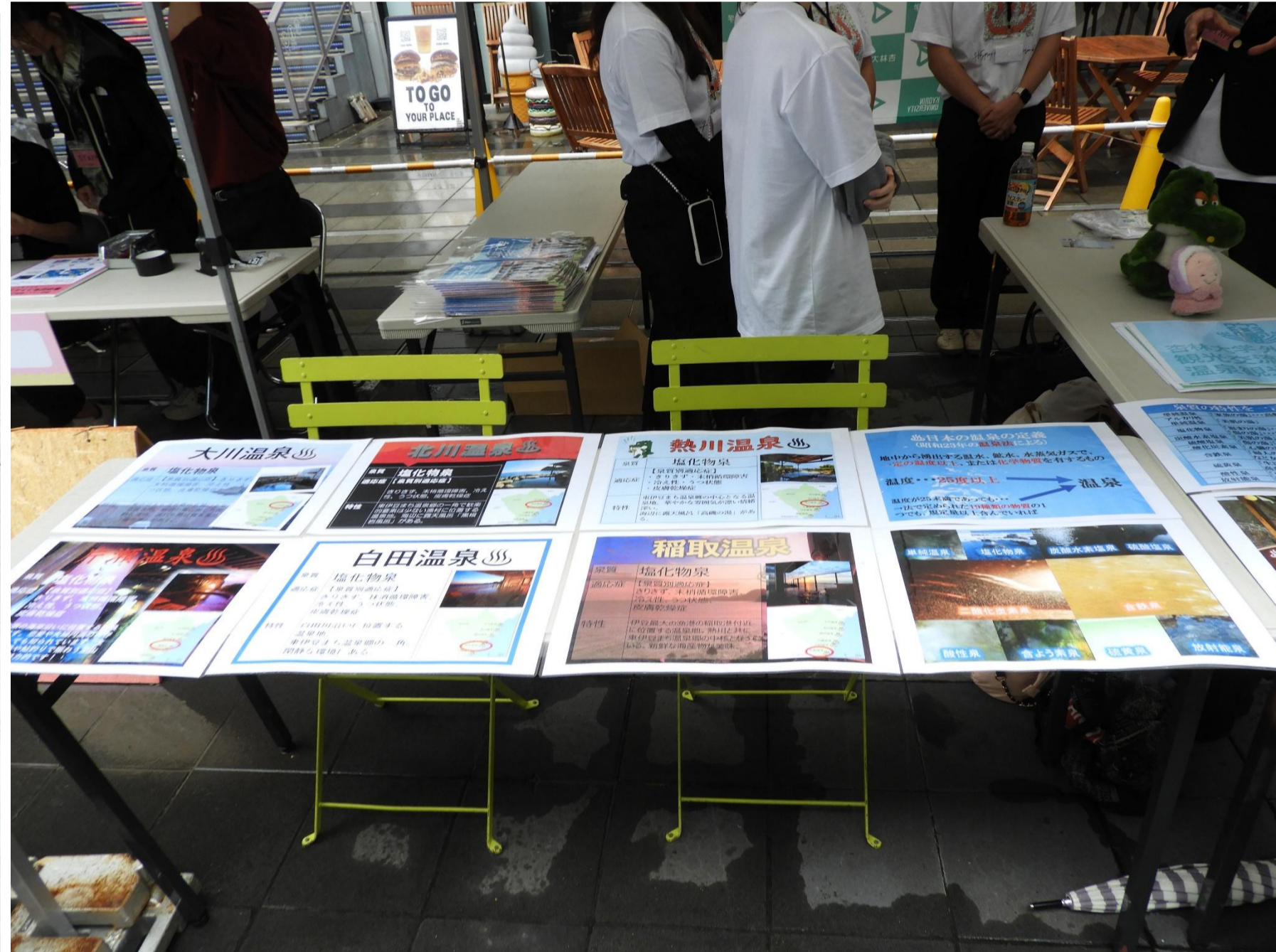


図6 東伊豆町・杏林大学との連携による渋谷温泉プロジェクト



図7 渋谷で東伊豆の足湯を楽しむ訪日外国人観光客

・長野県観光機構との連携による長野県ウェルネスツーリズムプランの構築

本研究は、長野県観光機構と連携し、観光学と保健学の融合によるウェルネスツーリズムの実態把握とモデル構築を目的に実施された。これまで、千曲市の「あんず」を媒介とした連携のもと、地域関係者と学生の協働により資源の再評価と新たな観光価値の創出を進め、その成果は「Re☆My Life in NAGANO」として体系化された。本モデルは四領域・全16プランで構成され、季節性を踏まえた点に特徴がある。本年度の調査では、これらの提案内容の実効性を検証するため、長野市および高山村を含む複数地域において現地調査を実施した。特に、高山村における温泉資源の活用や、地域に点在する自然資源を活かしたウェルネス体験の実証を行った点に意義がある。また、県が推進するワイナリーと地域資源を結びつけた「テロワールツーリズム」の概念を踏まえ、温泉や自然環境と融合した独自の観光プランの構築を試みた。今後は健康効果の実証的評価を通じ、科学的根拠に基づく展開が求められる。

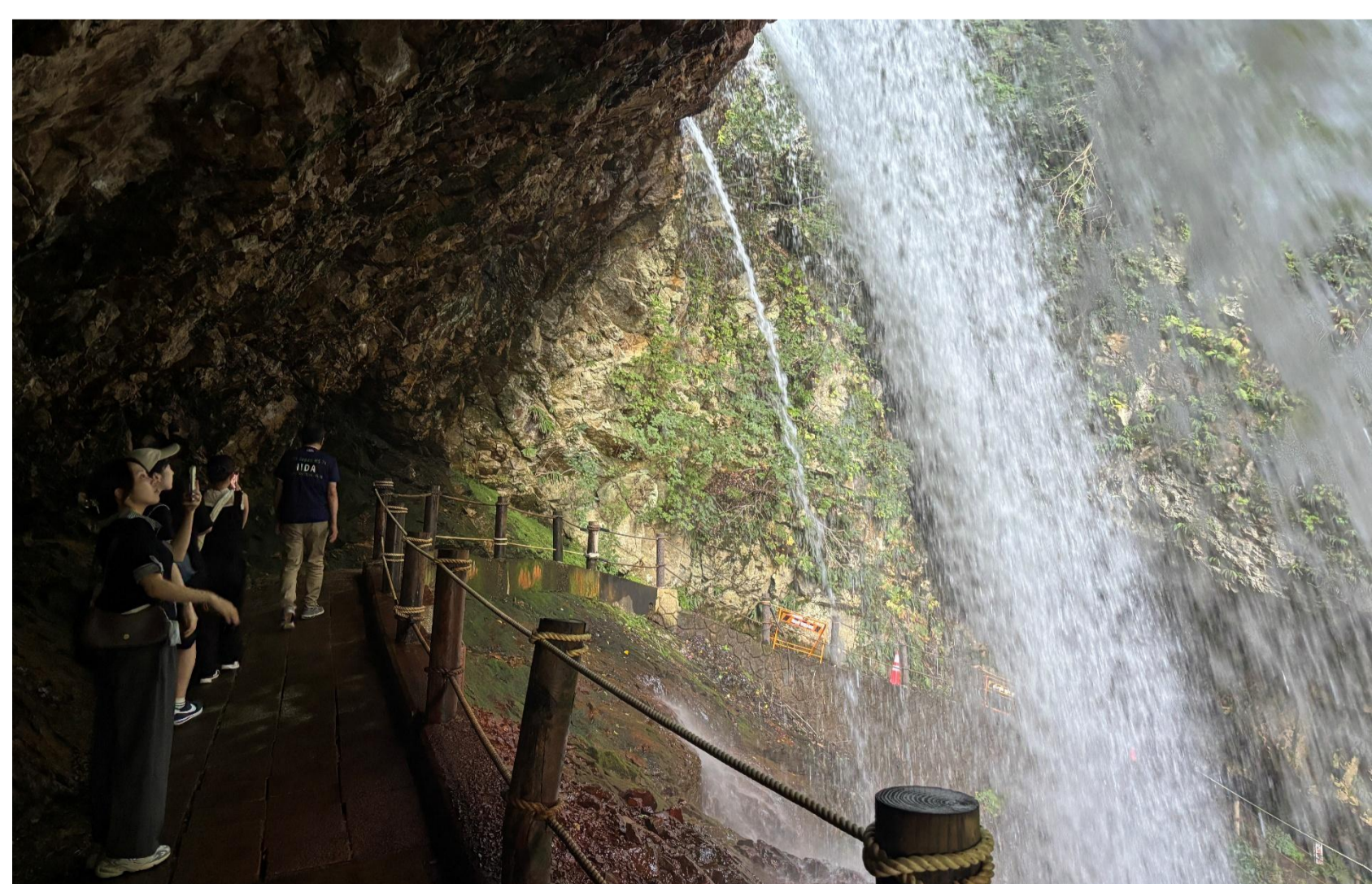


図8 長野県エコツーリズム資源視察



図9 長野県ウェルネスツーリズム資源視察



図10 杏林大学生と創ったウェルネスツーリズムコース Re☆My Life in NAGANO(長野県観光機構公式サイト)

## 3. 今後の展望

これまでの研究活動で不足していた項目や課題を吟味し、引き続き対象地域にて調査を継続していくとともに、杏林型ウェルネスツーリズムの確立を目指していく。さらに、対象地域関係者や地域住民との連携を図りながら地域性を活かし、我々の専門性がウェルネスツーリズムに貢献できるように模索していきたいと考えている。

### 《参考文献》

- 1) 荒川雅志(2017):『ウェルネスツーリズム～サードプレイスへの旅～』フレグランスジャーナル社
- 2) 小堀貴亮(2020):「東伊豆町における温泉観光地域の地域的特性—新しい“首都圏の奥座敷”としての展望」温泉,88巻4号